
2022年度第1四半期決算 及び
2022年度業績見通し

説明資料

帝人株式会社

2022年8月8日

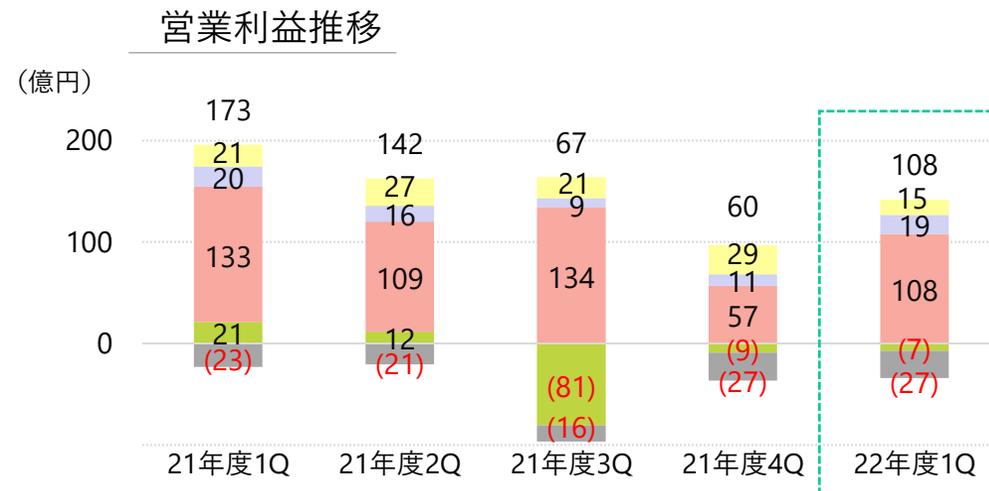
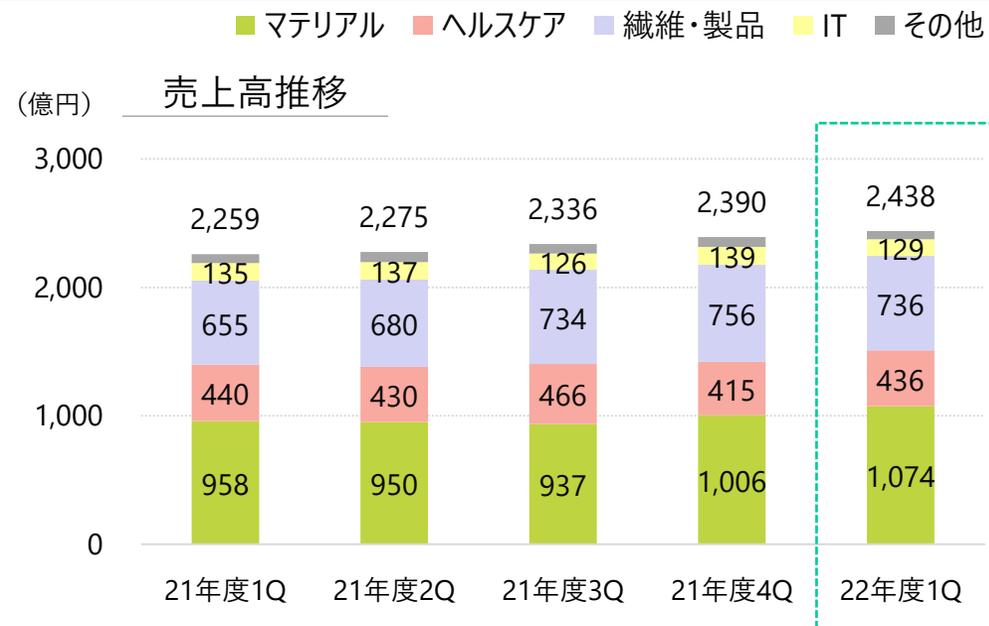
今回公表のポイント

■1Q実績（前年同期対比）

- 堅調な需要を背景とした販売増で売上高は7.9%増の2,438億円となるも、営業利益は37.6%減の108億円（進捗率22%）
 - マテリアル：自動車用途・航空機用途を中心とした販売量の増加や為替影響等が利益貢献するも、中国ロックダウン影響、原燃料価格高騰および物流費増等で営業赤字（▲7億円）
 - ヘルスケア：医薬品「フェブリク」の後発品が6月に参入した影響および薬価改定等で減益
- 四半期純利益は営業外・特別損益の改善により、25.8%減の73億円

■通期業績見通し（前年度対比）

- 前年度対比増収（1兆円：8.0%増）・営業増益（500億円：13.1%増）という前回見通しを据え置き
 - マテリアル：堅調な需要継続および生産能力増強の投資効果が発現し黒字に回復する見通し
 - ヘルスケア：「フェブリク」の後発品参入により減益の見通し
- 当期純利益は20.9%増の280億円の見込み、年間配当見通しは前年度並みの55円で、いずれも前回見通しを据え置き



*2022年度より埋込型医療機器事業について、「ヘルスケア」セグメントから「その他」セグメントへ区分変更を実施。それに伴い2021年度の情報は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で表示している

当社の主要ターゲット市場の前提（2022年度）

需要は全般的に堅調な状況が継続する見通し

事業	市場	主な地域	1Q実績	2Q以降見通し	
マテリアル	アラミド	自動車	欧州 米国	<ul style="list-style-type: none"> 特に欧州での高級車/EV向けタイヤ需要が拡大 米国も引き続き需要は堅調 	<ul style="list-style-type: none"> さらに需要は拡大の見通し
		産業資材	欧州 米国	<ul style="list-style-type: none"> 光ファイバー用途は高水準な需要が継続 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き需要は堅調に推移
		防弾・防護	欧州 米国	<ul style="list-style-type: none"> 防弾・防護とも需要は堅調 特にウクライナ関連で米国需要が強い 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き需要は堅調に推移
	樹脂	事務機	中国 アジア	<ul style="list-style-type: none"> 中国ロックダウンによる部品調達難および小型プリンター需要減により、顧客の稼働は減少 	<ul style="list-style-type: none"> 部品調達難および小型プリンター需要減により、顧客稼働減は継続
		自動車	日本、中国 アジア	<ul style="list-style-type: none"> 半導体/電子部品不足、および中国ロックダウンを受け、顧客の稼働が減少 	<ul style="list-style-type: none"> 中国ロックダウン影響の解消により顧客稼働減は徐々に正常化
	炭素繊維	航空機	欧州 米国	<ul style="list-style-type: none"> 欧米は旅客機利用者数の緩やかな回復傾向が継続 	<ul style="list-style-type: none"> 欧米を中心に旅客需要のさらなる回復を見込む
複合成形	自動車	米国、欧州 中国	<ul style="list-style-type: none"> 半導体不足やサプライチェーンの混乱影響を受け、OEMでの生産制約が継続 	<ul style="list-style-type: none"> 需要堅調な中、半導体不足によるOEMでの生産制約は徐々に解消 	

- 見通しに織り込み済み：1Q後半並みの天然ガス・原材料価格高騰が年度にわたって継続
- 見通しに織り込まず：グローバルでの景気後退影響、COVID-19の再蔓延による中国再ロックダウン影響やロシアから欧州への天然ガス供給停止影響等

当社の主要ターゲット市場の前提（2022年度）

事業	市場	主な地域	1Q実績	2Q以降見通し
ヘルスケア	医薬品	日本	<ul style="list-style-type: none"> 痛風・高尿酸血症薬市場は拡大継続 	<ul style="list-style-type: none"> 痛風・高尿酸血症患者数は拡大基調だが、後発品参入により市場規模（薬価売上）は縮小
			<ul style="list-style-type: none"> 糖尿病薬市場は微増も、厳しい競争環境が継続 COVID-19影響により病院では訪問規制が継続し、e-プロモーション強化が継続 	
	在宅医療		<ul style="list-style-type: none"> 在宅酸素療法（HOT）市場では、入院抑制により在宅療養へのシフトが継続 在宅持続陽圧呼吸療法（CPAP）市場は拡大継続、検査数は緩やかな回復基調継続 	
繊維・製品	衣料繊維	欧米・中国 日本	<ul style="list-style-type: none"> 欧米では消費が回復 中国では都市封鎖エリアの市況が低迷 国内は行動規制の緩和により消費は回復傾向 	<ul style="list-style-type: none"> オミクロン株新系統の感染拡大状況に注視が必要
	産業資材	日本 中国	<ul style="list-style-type: none"> 自動車用途は回復基調であるが、半導体不足影響あり 	<ul style="list-style-type: none"> 半導体不足による顧客稼働減は徐々に正常化
IT	電子コミック	日本	<ul style="list-style-type: none"> 電子コミックにおける海賊版サイトの影響が軽減される中、市場の成長は継続 	<ul style="list-style-type: none"> 海賊版サイトの影響は残るものの、市場の成長は継続

➤ 見通しに織り込み済み：1Q後半並みの天然ガス・原材料価格高騰が年度にわたって継続

➤ 見通しに織り込まず：グローバルでの景気後退影響、COVID-19の再蔓延による中国再ロックダウン影響やロシアから欧州への天然ガス供給停止影響等

1. 2022年度第1四半期決算 P. 5
2. 2022年度業績見通し P.13
3. 参考資料 P.21

見通しに関するご注意

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。当資料に含まれている医薬品、医療機器、再生医療等製品（開発中のものも含む）に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的とするものではありません。

本資料は2022年8月8日午前11時30分に公表した弊社決算に基づくものです。

1. 2022年度第1四半期決算

◆ 実績ハイライト [前年同期対比]

【売上高】 マテリアルでの堅調な需要を背景とした自動車用途・航空機用途の販売量増加に加え、原燃料価格高騰に対応した販売価格改定および為替影響等により、全体で7.9%の増収

【営業利益】 マテリアルはアラミドでの前年同期の大型定修からの反動による操業度改善や為替影響等が利益貢献するも、中国ロックダウンによる販売減影響、原燃料価格高騰および物流費増等で減益となり営業赤字。ヘルスケアは医薬品「フェブリク」の後発品参入による販売減や薬価改定等で減益。全体では37.6%の減益

【四半期純利益】 営業利益減の一方で営業外・特別損益の改善により、25.8%の減益

(単位：億円)

売上高

営業利益

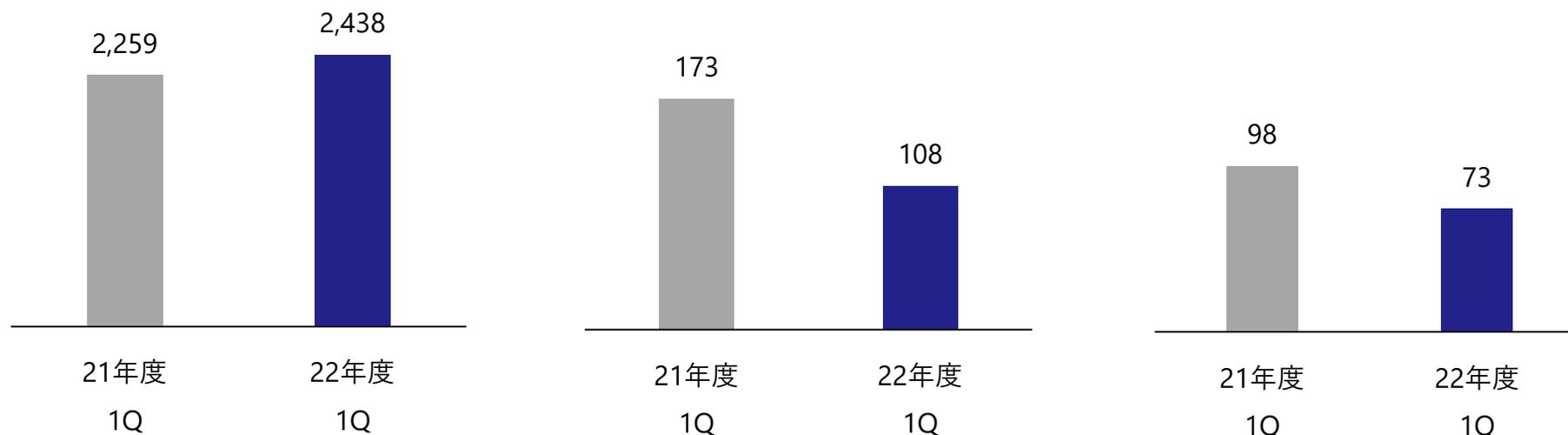
親会社株主に帰属する
四半期純利益

前年同期対比

+7.9%

-37.6%

-25.8%



◆ 実績サマリー [前年同期対比]

	(億円)			
	21年度 1Q	22年度 1Q	差異	増減率
売上高	2,259	2,438	+179	+7.9%
営業利益	173	108	-65	-37.6%
営業外損益	12	35	+23	+194.3%
経常利益	184	143	-42	-22.6%
特別損益	-19	2	+21	-
税金等調整前 四半期純利益	165	145	-20	-12.3%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	98	73	-25	-25.8%
ROE ^{*1}	9.5%	6.5%	-3.0%	-
営業利益ROIC ^{*2}	8.7% ^{*3}	5.2%	-3.5%	-
EBITDA ^{*4}	339	292	-46	-13.6%

*1 「親会社株主に帰属する四半期純利益÷期首・期末平均自己資本」にて算出

2 「営業利益÷期首・期末平均投下資本」にて算出

(*投下資本 = 純資産 + 有利子負債 - 現金及び預金)

*1、*2は年換算後の数値

*3 期首の投下資本は糖尿病薬販売権等承継による増加を含めて算出

	(億円)			
	21年度 1Q	22年度 1Q	差異	増減率
設備投資 ^{*5}	1,501	135	-1,366	-91.0%
(設備投資 調整後※)	(177)			
減価償却費 ^{*6}	166	185	+19	+11.3%
研究開発費	63	78	+15	+23.5%

※糖尿病薬販売権等承継による無形固定資産増（1,324億円）を除く

◇ 為替・市況燃料価格

		21年度 1Q	22年度 1Q
PL換算レート	円/米ドル	109	130
	円/ユーロ	132	138
原油(Dubai)価格 (米ドル/バレル)		67	106
欧州天然ガス価格 (ユーロ/MWh)		25	106

*4 「営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)」にて算出

*5 設備投資には無形固定資産の取得を含む (M&Aは含まず)

*6 のれん償却含む

◆ マテリアルセグメント [前年同期対比]

(億円)

	21年度 1Q	22年度 1Q	前年同期 との差異	増減率
売上高	958	1,074	+116	+12.1%
EBITDA	94	82	-12	-12.4%
減価償却費	72	89	+17	+23.4%
営業利益	21	-7	-28	-
営業利益ROIC	3%	-1%	-3%	-

< EBITDA増減内訳 >

(億円)

21年度 1Q	数量差	売値・ 構成差	原燃料 単価差	為替 影響	その他	22年度 1Q
------------	-----	------------	------------	----------	-----	------------

(+) アラミド、複合成形材料他
(-) 樹脂



自動車用途・航空機用途を中心に需要堅調で販売量が増加。為替影響による収益押し上げ効果はあったものの、中国ロックダウンによる工場稼働率低下、原燃料価格高騰および物流費増等が収益に影響

■ アラミド繊維 (増収・増益)

- 需要は旺盛も紡糸工場の生産工程不調等により在庫が逼迫し販売量減少
- 前年同期の大型定修実施からの操業度改善や為替影響が収益に貢献
- 天然ガス価格上昇がコストに影響しており、販売価格改定を実施

■ 樹脂 (減収・減益)

- 中国ロックダウンを受けて、工場の稼働率が低下し販売量が減少

■ 炭素繊維 (増収・増益)

- 用途全般において需要は堅調
- 航空機向けの販売量が増加したことにより、販売構成が改善
- 主原料であるANの価格高騰を受けて、販売価格改定を実施

■ 複合成形材料 (増収・減益)

- 米国での消費者の自動車購買意欲は引き続き堅調に推移
- 半導体を含む原材料や部品の不足等により、OEMの生産休止が継続したものの、新大型プログラムの販売本格化もあり、販売量が増加
- 原材料価格の高騰が継続しており、引き続き販売価格改定交渉を実施

■ 電池部材 (増収・増益)

- セパレータのスマートフォン向けの需要が好調で、新規モデルへの採用も進展

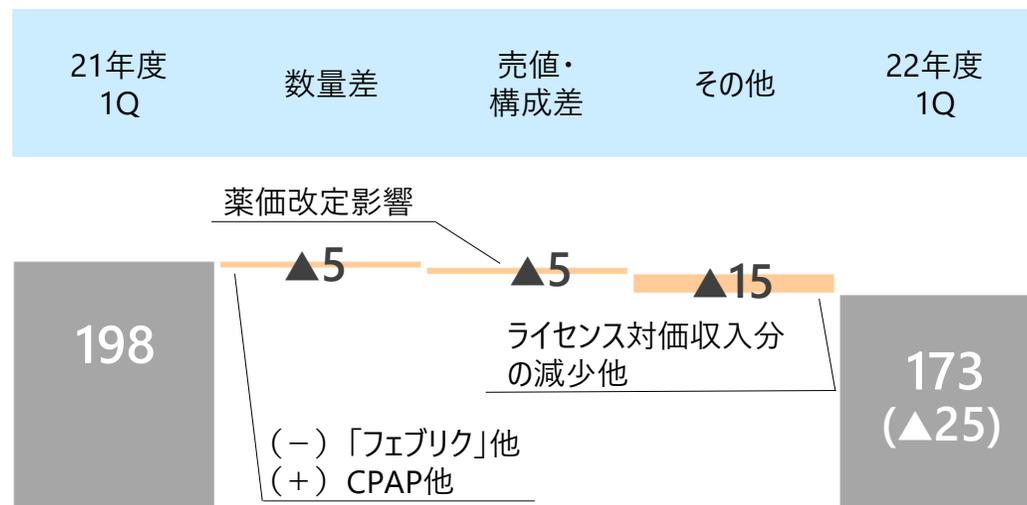
◆ ヘルスケアセグメント [前年同期対比]

(億円)

	21年度 1Q	22年度 1Q	前年同期 との差異	増減率
売上高	440	436	-4	-0.8%
EBITDA	198	173	-25	-12.5%
減価償却費	65	66	+1	+0.9%
営業利益	133	108	-25	-19.0%
営業利益ROIC	24%	23%	-2%	-

< EBITDA増減内訳 >

(億円)



糖尿病治療剤の販売や在宅医療機器のレンタルは堅調
一方で、医薬品「フェブリク」は、6月の後発品参入により販売量が減少

■ 医薬品

- 糖尿病治療剤の販売が堅調に推移
- 「ソマチュリン*1」や「ゼオマイン*2」の販売量が順調に拡大
- 2022年6月に「フェブリク*3」の後発品が参入し販売量減少
- 薬価改定影響および前年同期のライセンス対価収入計上の反動あり

■ 在宅医療

- HOT：COVID-19向け病床確保のための入院抑制・在宅療養へのシフトが継続している中、高い水準でレンタル台数を維持
- CPAP：検査数は緩やかな回復基調にあり、レンタル台数増加が継続

*1 先端巨大症・下垂体性巨人症/甲状腺刺激ホルモン産生下垂体腫瘍/膝・消化管神経内分泌腫瘍治療剤

ソマチュリン®/Somatuline®は、Ipsen Pharma（仏）の登録商標です

*2 上肢・下肢痙縮治療剤。ゼオマイン®/Xeomin®は、Merz Pharma GmbH & Co, KGaA（独）の登録商標です

*3 高尿酸血症・痛風治療剤

*2022年度より埋込型医療機器事業について、「ヘルスケア」セグメントから「その他」セグメントへ区分変更を実施。
それに伴い2021年度の情報は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で表示している

◆ 繊維・製品セグメント [前年同期対比]

(億円)

	21年度 1Q	22年度 1Q	前年同期 との差異	増減率
売上高	655	736	+81	+12.4%
EBITDA	36	36	+0	+0.3%
減価償却費	16	18	+2	+10.1%
営業利益	20	19	-1	-7.4%
営業利益ROIC	7%	5%	-1%	-

◆ ITセグメント [前年同期対比]

(億円)

	21年度 1Q	22年度 1Q	前年同期 との差異	増減率
売上高	135	129	-7	-4.9%
EBITDA	24	17	-7	-28.2%
減価償却費	3	2	-1	-32.0%
営業利益	21	15	-6	-27.7%
営業利益ROIC	57%	38%	-19%	-

■ 繊維・製品セグメント

- 産業資材分野：水処理フィルター向けポリエステル短繊維、自動車関連部材、インフラ補強材、人工皮革は好調
- 衣料繊維分野：欧米・中国向け素材・製品販売や重衣料の国内販売は堅調に推移
- 原燃料価格や物流費の高騰、円安影響による仕入れコスト上昇が業績に影響したものの、産業資材分野を中心に販売価格改定を遂行

■ ITセグメント

- ネットビジネス分野では、電子コミックサービスにおいて、海賊版サイトの影響が軽減される中、成長路線への回復を狙い広告宣伝を強化。ITサービス分野では、ヘルスケア事業を中心に業績が堅調に推移

■ その他 エンジニアリング事業、埋込型医療機器事業、再生医療事業 等

- 2022年度より「ヘルスケア」から「その他」へ区分変更した人工関節・吸収性骨接合材等の埋込型医療機器事業において、2022年2月のKiSCO（株）からの外傷・脊椎事業買収の影響もあり販売が順調に伸長
- 再生医療事業の（株）ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング（J-TEC）において、自家培養軟骨「ジャック」の売上が拡大した一方、自家培養表皮「ジェイス」の売上が減少した影響等により、前年同期比で減収
2022年4月に、白斑治療を目的とする新製品として、メラノサイト含有自家培養表皮「ACE02」の製造販売承認を申請

◆ 営業外損益 [前年同期対比]

	(億円)		
	21年度 1Q	22年度 1Q	差異
受取利息	1	2	+1
受取配当金	4	5	+1
持分法による投資利益	15	12	-3
デリバティブ評価益	2	71	+70
投資事業組合運用益	-	4	+4
その他	3	2	-1
営業外収益 計	26	98	+72
支払利息	7	11	+4
為替差損	0	44	+44
デリバティブ評価損	2	4	+2
投資事業組合運用損	1	-	-1
その他	3	3	-0
営業外費用 計	14	62	+49
営業外損益 計	12	35	+23

◆ 特別損益 [前年同期対比]

	(億円)		
	21年度 1Q	22年度 1Q	差異
投資有価証券売却益	-	11	+11
その他	1	0	-0
特別利益 計	1	11	+10
固定資産除売却損	5	4	-1
投資有価証券評価損	-	2	+2
減損損失	15	0	-15
その他	0	4	+3
特別損失 計	20	9	-11
特別損益 計	-19	2	+21

◆ 財政状態 [前年度末対比]

	(億円)			内 為替 換算影響
	22年 3月末	22年 6月末	差異	
総資産	12,076	12,653	+577	+356
負債	7,428	7,854	+426	+199
(内 有利子負債)	4,852	5,178	+326	+146
純資産	4,648	4,799	+151	+157
D/Eレシオ ^{*1}	1.10	1.14	+0.03	-
D/Eレシオ (資本性調整後) ^{*2}	0.97	1.01	+0.04	-

◇ 総資産 増減内訳

	(億円)		
	22年 3月末	22年 6月末	差異
現金及び預金	1,345	1,468	+124
売上債権 ^{*4}	1,968	1,956	-12
棚卸資産	1,646	1,910	+264
固定資産	5,063	5,238	+175
投資有価証券	850	847	-3
その他	1,204	1,233	+29
総資産 計	12,076	12,653	+577

◆ キャッシュ・フローの状況 [前年同期対比]

	(億円)		
	21年度 1Q	22年度 1Q	差異
営業活動	13	216	+202
投資活動	-1,515 ^{*3}	-150	+1,365
フリー・キャッシュ・フロー	-1,502	66	+1,568
財務活動他	1,186	58	-1,128
現金及び現金同等物増減	-316	123	+439

* キャッシュ・フローについては金融商品取引法に基づく四半期レビューの対象外

◇ BS換算レート

	22年 3月末	22年 6月末
円/米ドル	122	137
円/ユーロ	137	143

*1 「有利子負債÷自己資本」にて算出 (グロス表示)

*2 劣後債資本性調整後のD/Eレシオ (2021年7月21日 劣後債 600億円発行済)

*3 糖尿病薬販売権等承継 (無形固定資産増 (1,324億円)) 等

*4 契約資産含む

2. 2022年度業績見通し

◆ 通期業績見通しハイライト [前年度対比、前回見通し*1対比]

【前年度対比】

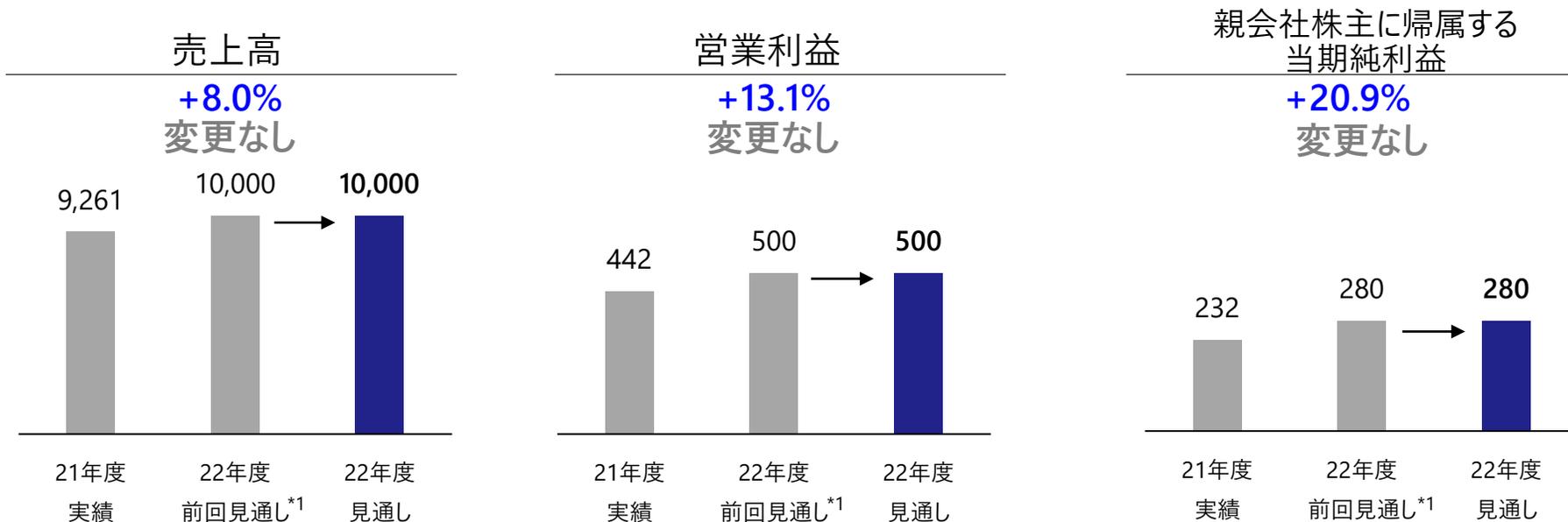
- マテリアルでの堅調な需要を背景とした各事業での生産能力増強、新工場稼働に伴う販売量増効果や為替影響が、ヘルスケアの医薬品「フェブリク」の後発品参入による販売量減影響をカバーし、増収・営業増益となる見通し

【前回見通し対比】

- マテリアルでの樹脂の中国ロックダウンによる販売量減を炭素繊維の航空機向け販売量増がカバーする等で、売上高・営業利益を据え置き
- 見通しに織り込み済み：1Q後半並みの天然ガス・原材料価格高騰が年度にわたって継続
- 見通しに織り込まず：グローバルでの景気後退影響、COVID-19の再蔓延による中国再ロックダウン影響やロシアから欧州への天然ガス供給停止影響等

(単位：億円)

前年度対比
前回見通し*1対比



前提条件

	21年度	22年度 前回見通し*1	22年度 見通し
通期平均為替レート 円/米ドル	112	125	134
円/ユーロ	131	135	138
原油(Dubai)価格 (米ドル/バレル)	78	100	100
欧州天然ガス価格 (ユーロ/MWh)	69	105	122

2022年度配当金見通し (前回見通し*1から変更なし)

中間 27.5円/株, 期末 27.5円/株, 年間 55円/株

(21年度：中間 27.5円/株 期末27.5円/株 年間55円/株)

◆ 通期業績見通しサマリー [前年度対比、前回見通し*1対比]

	21年度 実績	22年度 見通し*2	差異	増減率	(億円) 22年度 前回見通し*1
売上高	9,261	10,000	+739	+8.0%	10,000
営業利益	442	500	+58	+13.1%	500
経常利益	497	520	+23	+4.6%	520
親会社株主に帰属する当期純利益	232	280	+48	+20.9%	280
ROE *3	5.5%	6%	+1%		6%
営業利益ROIC *4	5.5% *10	6%	+1%		6%
EBITDA *5	1,130	1,250	+120		1,250
フリー・キャッシュ・フロー	-1,087 *11	300	+1,387		300
設備投資 *6	2,008 *11	700	-1,308		700
減価償却費 *7	688	750	+62		750
研究開発費	333	340	+7		340
D/Eレシオ *8	1.10	1.0	-0.1		1.0
D/Eレシオ（資本性調整後） *9	0.97	0.9	-0.1		0.9

*1 2022年5月12日公表

*2 前回見通しから変更なし

*3 「親会社株主に帰属する当期純利益÷期首・期末平均自己資本」にて算出

4 「営業利益÷期首・期末平均投下資本」にて算出（*投下資本＝純資産＋有利子負債－現金及び預金）

*5 「営業利益＋減価償却費（のれんを含む）」にて算出 *6 設備投資には無形固定資産の取得を含む（M&Aを含まず）

*7 のれん償却含む *8 「有利子負債÷自己資本」にて算出（グロス表示）

*9 劣後債資本性調整後のD/Eレシオ（2021年7月21日 劣後債 600億円発行済）

*10 期首の投下資本は糖尿病薬販売権等承継による増加を含めて算出

*11 糖尿病薬販売権等承継による無形固定資産増（1,324億円）を含む

◆ セグメント別 売上高・営業利益 [前年度対比、前回見通し*1対比]

(億円)

	21年度 実績	22年度 見通し*2	差異	増減率	22年度 前回見通し*1
売上高					
マテリアル	3,851	4,600	+749	+19.4%	4,600
ヘルスケア*3	1,751	1,550	-201	-11.5%	1,550
繊維・製品	2,825	2,950	+125	+4.4%	2,950
IT	538	600	+62	+11.6%	600
その他*3	296	300	+4	+1.3%	300
合計	9,261	10,000	+739	+8.0%	10,000

(億円)

	21年度 実績	22年度 見通し*2	差異	増減率	22年度 前回見通し*1
営業利益					
マテリアル	-57	155	+212	-	155
ヘルスケア*3	433	260	-173	-39.9%	260
繊維・製品	56	85	+29	+50.7%	85
IT	97	100	+3	+3.1%	100
その他*3	-23	-30	-7	-	-30
消去又は全社	-64	-70	-6	-	-70
合計	442	500	+58	+13.1%	500

営業利益見通しの方向感

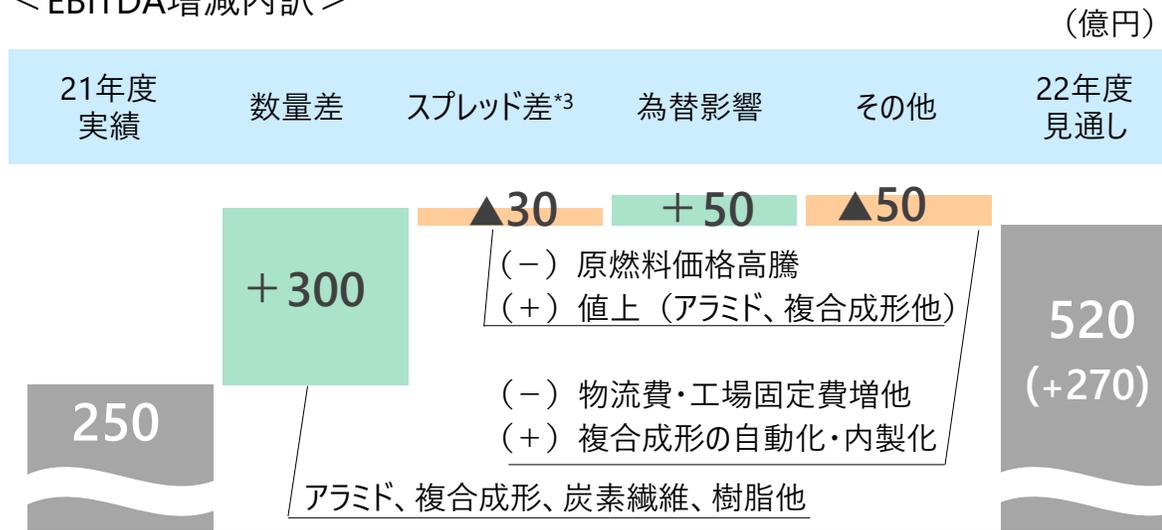
	前年度対比		前回見通し*1対比	
全体		営業増益の見通し		前回見通しから変化なし
-マテリアル		各事業での生産能力増強、新工場稼働に伴う販売量増 為替影響		中国ロックダウン影響および想定以上の原燃料価格高騰を、 販売価格改定と為替影響による収益押し上げ効果等で相殺
-ヘルスケア		医薬品「フェブリク」の後発品参入による販売量減影響		前回見通しから変化なし
-繊維・製品		産業資材の自動車用途・衣料繊維はCOVID-19・海外工 場ロックダウンからの回復での販売量増		前回見通しから変化なし
-IT		売上増および本社移転に伴う一時費用減を見込むが、 マーケティング強化によるコスト増あり		前回見通しから変化なし

*1 2022年5月12日公表 *2 前回見通しから変更なし

*3 2022年度より埋込型医療機器事業について、「ヘルスケア」セグメントから「その他」セグメントへ区分変更を実施。それに伴い2021年度の情報は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で表示している

◆ マテリアルセグメント [前年度対比、前回見通し*1対比] < EBITDA増減内訳 >

	21年度 実績	22年度 見通し*2	差異	22年度 前回見通し*1
売上高				
高機能材料	2,735	3,000	+265	3,000
複合成形材料	1,116	1,600	+484	1,600
計	3,851	4,600	+749	4,600
EBITDA	250	520	+270	520
減価償却費	307	365	+58	365
営業利益	-57	155	+212	155
営業利益ROIC	-2%	4%	+6%	4%



営業利益見通しの方向感

サブセグメント	前年度対比	前回見通し*1対比
アラミド	<ul style="list-style-type: none"> 大型定修とその期間延長および原料工場停電による生産停止の影響解消 原燃料価格高騰が継続するも、販売価格改定を推進 オランダでの設備能力増強による販売量増 	<ul style="list-style-type: none"> 天然ガス価格高騰と1Qの生産不調等の影響を販売価格改定の推進と為替影響が相殺
樹脂	<ul style="list-style-type: none"> 期首繰越在庫影響、中国ロックダウン影響、物流費高騰影響 	<ul style="list-style-type: none"> 中国ロックダウン影響、物流費高騰影響
炭素繊維	<ul style="list-style-type: none"> 航空機需要の堅調な回復に伴う販売量増 北米新工場稼働による販売量増 	<ul style="list-style-type: none"> 販売構成の改善 (航空機向け増加)
複合成形材料	<ul style="list-style-type: none"> 大型新プログラムによる販売量増加、半導体不足緩和によるOEM需要増 原材料価格高騰が継続するも、より広範なOEMに対する販売価格改定 成形工程の自動化、塗装ラインの内製化によるコストダウンの貢献幅拡大 	<ul style="list-style-type: none"> 原材料価格高騰を販売価格改定でカバー

*1 2022年5月12日公表 *2 前回見通しから変更なし *3 売値・構成差 + 原燃料単価差

◆ Teijin Automotive Technologies (US) 外部環境動向と収益改善施策の進捗状況

外部環境動向	2021年度実績	2022年度前回見通し*2	2022年度見通し
原材料価格高騰	期初より年度末まで高騰が継続	高止まりの状況が年度末まで継続の見通し	1Qにて上昇した価格が継続の見通し
半導体不足	2Qから年度末まで影響が継続	年度末に向かって緩やかに正常化する見通し	前回見通しから変化なし
米国労働需給逼迫	期初より年度末まで逼迫の状況が継続	年度前半に労働需給の逼迫が緩和する見通し	前回見通しから変化なし
収益改善施策	2021年度実績	2022年度前回見通し*2	2022年度見通し
値上げ (原材料価格の転嫁)	4Qより中堅OEM中心に販売価格改定	大手OEMに対する販売価格改定	前回見通しから変化なし
新プログラムの立ち上げ	4Qにテキサス新工場で大規模新プログラムを立ち上げ(立上コストもあり業績への貢献は限定的)	テキサス新工場の通期での高稼働化 新規大規模プログラムの立ち上げを計画	前回見通しから変化なし
成形工程の自動化 (必要人員の削減*1、生産性向上)	4Qにテキサス工場および主要工場 で成形工程自動化設備導入	成形工程自動化設備導入の横展開加速 (年間約10億円のコスト削減効果を想定)	前回見通しから変化なし
塗装工程の内製化 (外注比コスト削減、品質・生産性向上)	プロジェクトが数か月遅延し効果 発現せず	1Qで主要工場の塗装ラインの内製化完了 (年間約10億円のコスト削減効果を想定)	ほぼ前回見通し通りの内製化 効果発現

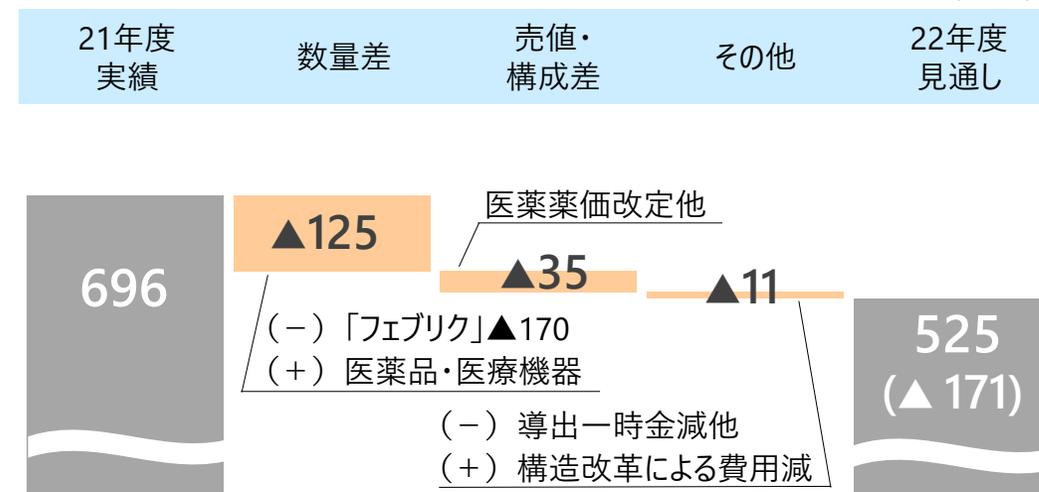
*1 成形工程直接人員を最大5割削減可能と想定

*2 2022年5月12日公表

◆ ヘルスケアセグメント [前年度対比、前回見通し*1対比]

	21年度 実績 ^{*2}	22年度 見通し ^{*3}	差異	(億円) 22年度 前回見通し ^{*1}
売上高	1,751	1,550	-201	1,550
EBITDA	696	525	-171	525
減価償却費	263	265	+2	265
営業利益	433	260	-173	260
営業利益ROIC	21%	13%	-8%	13%

< EBITDA増減内訳 >



営業利益見通しの方向感

サブセグメント	前年度対比	前回見通し*1対比
医薬・在宅医療	<ul style="list-style-type: none"> 医薬品「フェブリク」の後発品参入による販売量減、薬価改定影響 既存薬・医療機器の販売量・レンタル台数増 医薬・在宅医療の統合推進 	<ul style="list-style-type: none"> 前回見通しから変化なし
新事業	<ul style="list-style-type: none"> 地域包括ケアの基盤構築継続 機能性食品の製品ラインナップ拡充 	<ul style="list-style-type: none"> 前回見通しから変化なし

*1 2022年5月12日公表

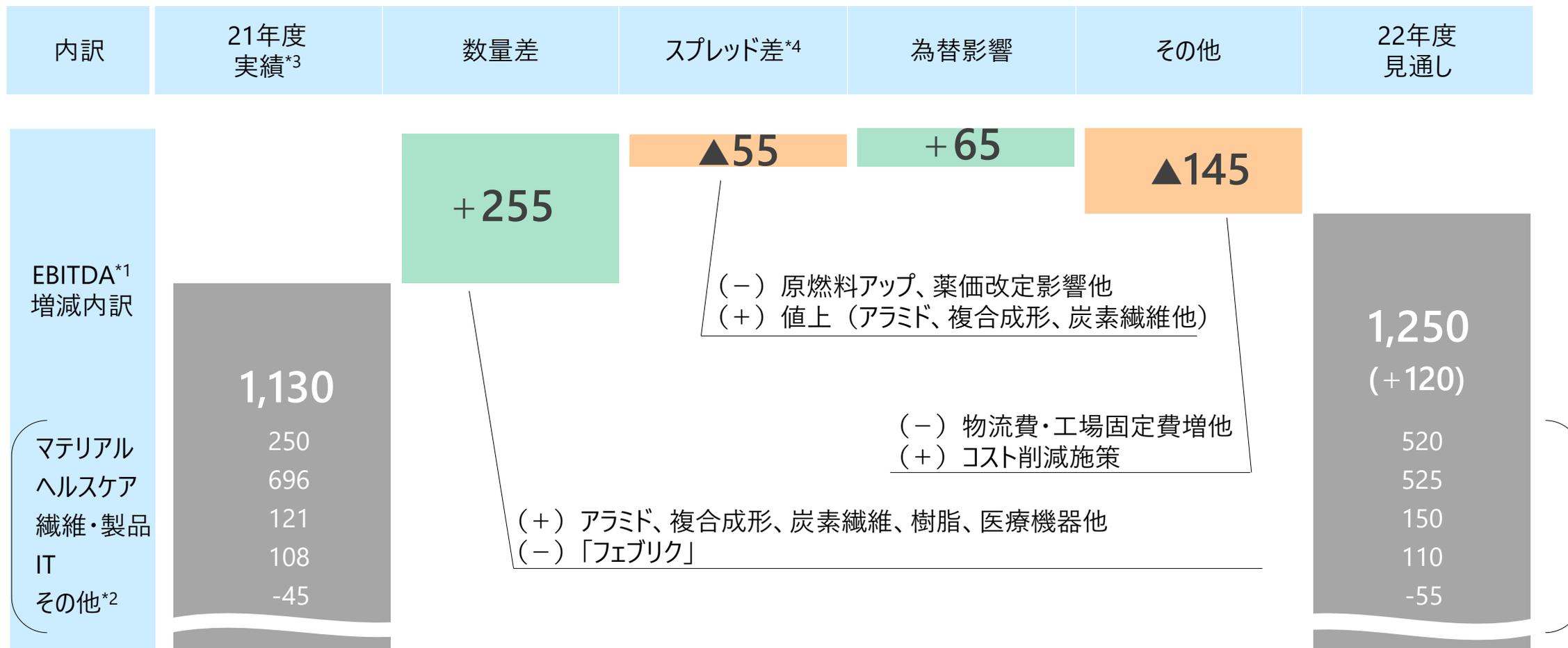
*2 2022年度より埋込型医療機器事業について、「ヘルスケア」セグメントから「その他」セグメントへ区分変更を実施。それに伴い2021年度の情報は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で表示している

*3 前回見通しから変更なし

2022年度業績見通し EBITDA増減要因（前年度対比）

- ヘルスケアの医薬品「フェブリク」の後発品参入影響はあるものの、マテリアルでの増販、販売価格改定およびコスト削減施策の発現、および為替影響による収益押し上げ効果等により、EBITDA増加を見込む

(億円)



*1 「営業利益 + 減価償却費（のれんを含む）」にて算出 *2 その他は「その他」および「消去又は全社」の合計としている

*3 2022年度より埋込型医療機器事業について、「ヘルスケア」セグメントから「その他」セグメントへ区分変更を実施。それに伴い2021年度の情報は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で表示している

*4 売値・構成差 + 原燃料単価差

3. 参考資料

開示セグメントの変更

帝人ナカシマメディカル(株)、帝人メディカルテクノロジー(株)を中心に展開している埋込型医療機器事業について、全社的・長期的視点でイノベーションを生み出していく新規事業と位置づけ、育成・強化を図るため、セグメント区分を変更

～2021年度

セグメント	事業
マテリアル	高機能材料
	複合成形材料
ヘルスケア	医薬品・在宅医療
	ヘルスケア新事業
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid red; padding: 2px;">埋込型 医療機器</div> <div style="border: 1px solid red; padding: 2px;">機能性 食品他</div> </div>
繊維・製品	繊維・製品
IT	IT
その他	その他 (J-TEC含む)

2022年度～

事業	セグメント
高機能材料	マテリアル
複合成形材料	
医薬品・在宅医療	ヘルスケア
ヘルスケア新事業	
機能性食品他	
繊維・製品	繊維・製品
IT	IT
その他 (J-TEC含む)	その他
埋込型医療機器	

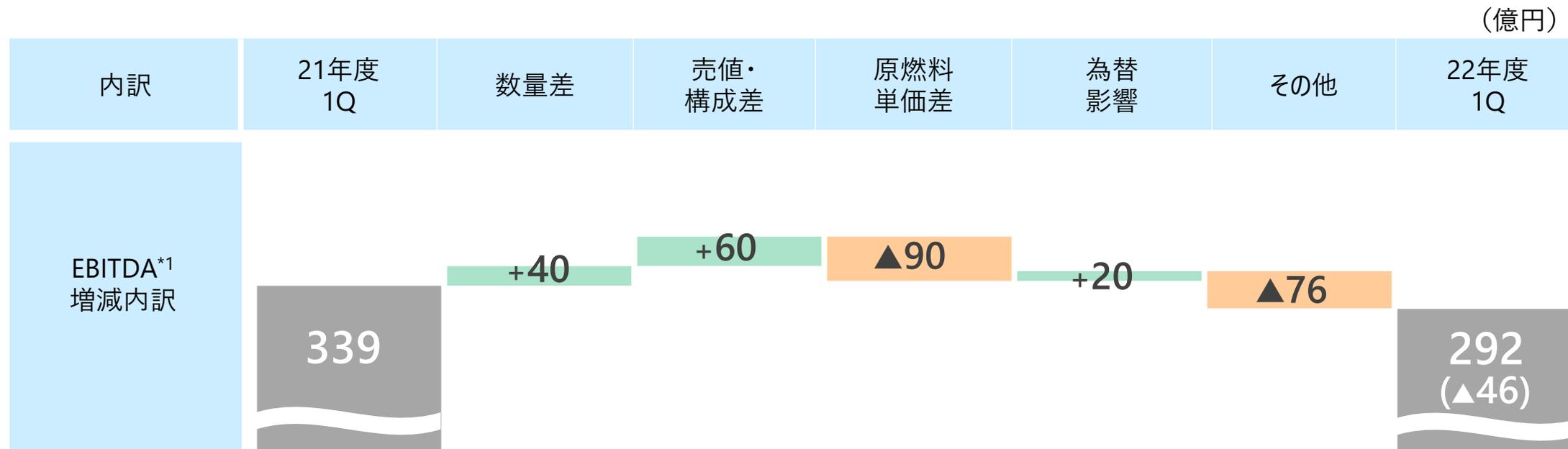
定常的な損益影響要因

セグメント	主な特徴
マテリアル	<ul style="list-style-type: none">アラミド大型定修は3年に一度（次回は2024年度1Q）樹脂は毎年2Q、3Qに定修
ヘルスケア	<ul style="list-style-type: none">4Qに経費集中傾向
繊維・製品	<ul style="list-style-type: none">衣料関係は3Qが秋冬物・4Qが春物シーズン
IT	<ul style="list-style-type: none">2Q、4Qはシステム検収時期で納入増

◆ EBITDA^{*1}増減（連結合計） [前年同期対比]

（億円）

	21年度 1Q	22年度 1Q	前年同期 との差異	増減率
売上高	2,259	2,438	+179	+7.9%
EBITDA ^{*1}	339	292	-46	-13.6%
減価償却費	166	185	+19	+11.3%
営業利益	173	108	-65	-37.6%
営業利益ROIC	8.7%	5.2%	-3.5%	-



*1「営業利益＋減価償却費（のれんを含む）」にて算出

◆ セグメント別 売上高・営業利益 四半期推移 [前年同四半期対比、直前四半期対比]

	21年度					22年度	差異	差異
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	22/1Q -21/1Q	22/1Q -21/4Q
売上高								
高機能材料	693	703	663	675	2,735	699	+6	+24
複合成形材料	264	248	274	330	1,116	375	+110	+44
マテリアル 計	958	950	937	1,006	3,851	1,074	+116	+68
ヘルスケア*	440	430	466	415	1,751	436	-4	+21
繊維・製品	655	680	734	756	2,825	736	+81	-20
IT	135	137	126	139	538	129	-7	-10
その他*	71	77	73	75	296	63	-8	-12
合計	2,259	2,275	2,336	2,390	9,261	2,438	+179	+48
営業利益								
マテリアル	21	12	-81	-9	-57	-7	-28	+2
ヘルスケア*	133	109	134	57	433	108	-25	+51
繊維・製品	20	16	9	11	56	19	-1	+7
IT	21	27	21	29	97	15	-6	-13
その他*	-4	-7	-2	-9	-23	-11	-7	-3
消去又は全社	-19	-13	-14	-19	-64	-15	+4	+3
合計	173	142	67	60	442	108	-65	+47

*2022年度より埋込型医療機器事業について、「ヘルスケア」セグメントから「その他」セグメントへ区分変更を実施。
それに伴い2021年度の情報は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で表示している

◆ 連結損益計算書 四半期推移

	21年度				(億円)
	1Q	2Q	3Q	4Q	22年度 1Q
売上高	2,259	2,275	2,336	2,390	2,438
売上原価	1,550	1,587	1,699	1,714	1,749
売上総利益	709	688	638	676	689
販管費	536	546	571	616	581
営業利益	173	142	67	60	108
営業外損益	12	-0	20	23	35
（内 金融収支）	-2	-5	-4	-5	-4
（内 持分法投資損益）	15	14	14	12	12
経常利益	184	142	87	84	143
特別損益	-19	34	8	-78	2
税金等調整前四半期純利益	165	176	94	6	145
法人税等	61	51	45	24	67
非支配株主に帰属する 四半期純利益	7	7	7	8	5
親会社株主に帰属する 四半期純利益	98	118	43	-27	73

◆ 連結貸借対照表 四半期推移

	21年度				(億円)
	6月末	9月末	12月末	3月末	22年度 6月末
資産					
流動資産	5,389	5,517	5,537	5,720	6,030
固定資産	6,461	6,171	6,220	6,356	6,623
合計	11,850	11,688	11,757	12,076	12,653
負債・純資産					
負債	7,439	7,182	7,209	7,428	7,854
(内 有利子負債)	5,029	4,828	4,729	4,852	5,178
純資産	4,411	4,506	4,548	4,648	4,799
合計	11,850	11,688	11,757	12,076	12,653

◆ セグメント別経営指標 [前年度対比、前回見通し^{*1}対比]

	21年度 実績	22年度 見通し ^{*2}	差異	(億円) 22年度 前回見通し ^{*1}
EBITDA ^{*3}				
マテリアル	250	520	+270	520
ヘルスケア ^{*4}	696	525	-171	525
繊維・製品	121	150	+29	150
IT	108	110	+2	110
その他 ^{*4}	10	5	-5	5
消去又は全社	-55	-60	-5	-60
合計	1,130	1,250	+120	1,250
営業利益ROIC ^{*5}				
マテリアル	-2%	4%	+6%	4%
ヘルスケア ^{*4}	21% ^{*6}	13%	-8%	13%
繊維・製品	4%	6%	+2%	6%
IT	61%	58%	-3%	58%
合計	5.5%^{*6}	6%	+1%	6%

*1 2022年5月12日公表

*2 前回見通しから変更なし

*3 「営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)」にて算出

*4 2022年度より埋込型医療機器事業について、「ヘルスケア」セグメントから「その他」セグメントへ区分変更を実施。それに伴い2021年度の情報は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で表示している

5 「営業利益 ÷ 期首・期末平均投下資本^{}」にて算出

(*投下資本 = 純資産 + 有利子負債 - 現金及び預金)

*6 期首の投下資本は糖尿病薬販売権等承継による増加を含めて算出

◆ 主要経営指標推移

	17年度 実績 ^{*6}	18年度 実績	19年度 実績	20年度 実績	21年度 実績	22年度 見通し
ROE ^{*1}	12.5%	11.2%	6.3%	-1.7%	5.5%	6%
営業利益ROIC ^{*2}	11.2%	9.3%	8.7%	8.6%	5.5% ^{*7}	6%
EBITDA ^{*3} (億円)	1,155	1,076	1,072	1,068	1,130	1,250
1株当たり当期純利益 (円)	231.3	232.4	131.6	-34.7	120.6	145.7
1株当たり配当金 (円)	60	70 [*]	60	50	55	55
*100周年記念配当 10円/株を含む						
総資産 (億円)	9,820	10,207	10,042	10,411	12,076	12,800
有利子負債 (億円)	3,442	3,692	3,819	3,800	4,852	5,000
D/Eレシオ ^{*4}	0.88	0.90	0.97	0.94	1.10	1.0
D/Eレシオ (資本性調整後) ^{*5}	-	-	-	-	0.97	0.9
自己資本比率	40.0%	40.2%	39.3%	39.0%	36.4%	37%

*1 「親会社株主に帰属する当期純利益÷期首・期末平均自己資本」にて算出

2 「営業利益÷期首・期末平均投下資本^{}」にて算出 (*投下資本 = 純資産 + 有利子負債 - 現金及び預金)

*3 「営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)」にて算出

*4 「有利子負債÷自己資本」にて算出 (グロス表示)

*5 劣後債資本性調整後のD/Eレシオ (2021年7月21日 劣後債 600億円発行済)

*6 『『税効果会計に係る会計基準』の一部改正』(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を18年度から適用しており、17年度実績については当該会計基準等を遡って適用した後の数値を記載

*7 期首の投下資本は糖尿病薬販売権等承継による増加を含めて算出

◆ 主要医薬品 国内売上高実績推移

(億円)

品名	薬効	21年度					22年度
		1Q	2Q	3Q	4Q	計	1Q
フェブリク®	高尿酸血症・痛風治療剤	96	97	106	89	388	87
糖尿病治療剤四剤合計		75	70	74	56	275	69
ネシーナ®	2型糖尿病治療剤	36	33	35	27	131	34
イニシク®	2型糖尿病治療剤（配合剤）	21	20	21	17	79	20
リオベル®	2型糖尿病治療剤（配合剤）	12	10	11	8	41	10
ザファテック®	2型糖尿病治療剤	7	6	7	5	25	5
ボナロン®*1	骨粗鬆症治療剤	20	20	21	17	78	18
ソマチュリン®*2	先端巨大症・下垂体性巨人症、甲状腺刺激ホルモン産生下垂体腫瘍、膵・消化管神経内分泌腫瘍治療剤	13	13	15	12	54	14
ベニロン®	重症感染症治療剤	12	12	13	9	46	10
ココア®	経皮吸収型鎮痛消炎剤	5	5	6	4	20	5
ゼオマイン®*3	上下肢痙縮治療剤	0.5	2	4	4	10	4
ムコソルバン®	去痰剤	5	5	7	5	22	4

*1 ボナロン®/Bonalon® はNV Organon(蘭)の登録商標です *2 ソマチュリン®/Somatuline® は Ipsen Pharma (仏)の登録商標です

*3 ゼオマイン®/Xeomin®は、Merz Pharma GmbH & Co, KGaA (独)の登録商標です

◆ 非財務情報 ESG外部評価

GPIFの5つのESG指数全ての構成銘柄に採用されています

FTSE Blossom
Japan Index2022 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)S&P/JPX
カーボン
エフィシエント
指数FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index2022 CONSTITUENT MSCIジャパン
ESGセレクト・リーダーズ指数

(注) MSCIインデックスへの帝人株式会社の組み入れおよび帝人株式会社によるMSCIのロゴ、商標、サービスマークまたはインデックス名の使用は、MSCIまたはその関係会社による帝人株式会社へのスポンサーシップ・宣伝・販売促進を企図するものではありません。MSCIインデックスはMSCIの独占的財産であり、MSCIおよびMSCIインデックスの名称ならびにロゴは、MSCIまたはその関係会社の商標またはサービスマークです。

SRI（社会的責任投資）インデックスに組み入れられています

Member of
Dow Jones
Sustainability Indices
Powered by the S&P Global CSA

FTSE4Good



MSCI ESG格付評価において最上位の「AAA」を獲得しました

MSCI
ESG RATINGS

CCC B BB BBB A AA AAA

日経SDGs経営調査で総合ランキング35位の高い評価を得ています

NIKKEI
SDGs
経営調査 2021 ★★★★★

- ・ 4分野全てにおいて「S以上」の高評価
- ・ 「ガバナンス」は全業界の中で偏差値70以上の上位10社に

ESGへの取り組みが優れている企業として、2つの国内プログラムに選定されています

「なでしこ」女性活躍推進

健康経営推進



TEIJIN

Human Chemistry, Human Solutions